

【第 31 回】

6 月に入り、全国的に新型コロナウイルス感染者が増加に転じております。大学においても同様な傾向です。飲食が原因となり集団で感染した事例もみうけます。まだまだ安心できる状況にはありません。感染対策を再認識しましょう。

5 月 8 日に新型コロナウイルス感染症が 5 類に移行した後、感染者が増加していることは先月号で紹介しました。新型コロナウイルス抗体保有率が上昇していれば少しは安心できる状況にあるでしょう。最近、厚生労働省は 5 月 17～31 日に献血時で実施した抗体調査について公表しました。その結果、全国平均は 42.8%で、2 月の調査(42.0%)とほとんど変わりませんでした。ちなみに北海道は 42.2%、最も高いのは沖縄県で 63.0%でした。本結果より、日本では欧米のような集団免疫がまだ得られておらず、感染についてまだまだ注意しなければならない状況であることがわかります。さらに、年に数回の大規模な流行が起り死亡者の多いこと、即効性の薬剤が存在しないこと、後遺症の治療法が確立されていないこと等からもまだまだ注意しなければならない状況といえるでしょう。

「新型コロナウイルスは自然と弱毒化している」という人がいます。確かに、一時の重症化率、死亡率から判断すると一理あるかもしれません。でも、この言説については強い根拠があるとはいえません。例をあげると、3000 年もの間、人類を脅かしてきた天然痘は根絶されるまでに弱毒化したとする報告を目にすることはありません。1918 年に大流行したスペイン風邪も、弱毒化したわけではなく、多くの感染者が生じることで社会全体に免疫ができて致死率が低下したと考えられています。過去の感染症の歴史が物語っています。

「ワクチン接種者や感染既往のある人は次に感染した際には重症化しにくくなる」という人もいます。この考えは常識的で現在は当てはまっております。でも、今後は覆される可能性があります。新型コロナウイルスは変異しやすいウイルスだからです。ウイルスが変異した際は、これまでの防御機構が十分に働くとは限らないからです。

現在の感染状況の悪化は第 9 波に入ったという意見もあります。お互い気を緩めずに引き続き地道な感染対策を継続していきましょう。(文責: 佐藤 浩樹)